令和元年度　国立大洲青少年交流の家　教育事業

サバイバルキャンプ（２年目）

１　事業概要

小学生の親子を対象に１泊２日の事業として実施した。参加者は防災に関する講義を受講した後、避難所体験として寝床作り、寝袋での就寝体験、火おこし体験、野外炊飯等、交流の家で様々な体験活動を行った。突然起きる災害時の対応等、必要な技術や知識を学ぶことができた。

２　事業の目的（ねらい）

近年日本各地で大規模災害が発生する頻度が高くなっており、防災力向上は喫緊の課題となっている。防災体験を提供することで、地域の防災力向上を図る。

３　企画のポイント

平成３０年７月の豪雨の際、避難所として活用されたこともあり、参加者に親子で避難所体験していただくことを柱とした。避難所等で想定される活動（炊きだし、火おこし、非常食作り）を体験し、災害時の対応等必要な技術、知識を身に付けるプログラムを実施した。

講義を受けてから体験することにより、充実した活動が展開されると思われる。それぞれの活動を通して技能を身に付けるだけでなく参加者同士で協力すること、コミュニケーションの大切さが分かること、避難所生活でモラル等を配慮して行動すること等の体験により、突発的に起きる災害時に役立つスキルを高めることができると考えている。

４　主　　催　　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

５　後　　援　　大洲市教育委員会

６　期　　日　　令和元年１１月２３日（土）～１１月２４日（日）

７　場　　所　　国立大洲青少年交流の家

８　対　　象　　小学校５・６年生の親子

９　参加人数　　１８組３８名

10　講　　師　　二神　透（愛媛大学社会連携推進機構防災情報研究センター副センター長）

11　日　　程

	14:00	14:30	15:00	16:30	19:00	20:00	22:00	22:30
23日（土）	受付開始	開講式 入所ＯＲ	**講話「防災ってなんだろう？」**	**「簡易浄水器作り」（子）「炊きだし」（親）夕食**	**寝床作り ダンボール又はテント（選択します）**	入浴 休憩	就寝準備	就寝

	6:30	9:00	10:30	12:00
24日（日）	起床 つどい 朝食・片づけ	**火おこし体験**	**野外炊飯（非常食作り）**	**アンケート 解散**

12　内　　容

⑴　「防災ってなんだろう？」

愛媛大学社会連携推進機構防災情報研究センター副センター長、二神透氏により講話をして頂いた。参加者は防災に関する知識を高め、防災について考え次の活動への期待を高めていった。

⑵　「簡易浄水器作り」

子どもたちが参加しペットボトルを使った簡易浄水器を作った。作り方を職員が説明し、砂、活性炭、脱脂綿等をペットボトルに詰めて作った。泥水をきれいにするところまで実施したかったが時間の都合上出来なかった。各自が持ち帰った。

⑶　「炊きだし体験」

保護者が鶏しお鍋とご飯を野外炊飯場で作った。ご飯担当、鍋担当を決め、それぞれが更に役割を決めて取り組んだ。職員が火のおこし方から説明し調理した。

⑷　「寝床作り」

武道場で避難所体験を行った。参加者はテント又はダンボールを選択し、親子で協力して寝床を作り、寝袋に入って就寝した。

⑸　「火おこし体験」

参加者はメタルマッチを使って火おこしを体験した。時間はかかったが、班で協力して行っていた。どの班も最後まであきらめる事なく取り組んでいた。

⑹　「野外炊飯」

火おこし体験でおこした火を使って非常食を作った。湯を沸かした鍋に、ビニール袋に入れたお米を入れ、白米を作った。レトルトパックのカレーを湯煎し、カレーライスを食べた。

13　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

※満足：８９％　※やや満足：１１％　※やや不満：０％　※不満：０％

〇貴重な経験ができた。避難する側の立場が理解できた。

〇災害時の避難方法を考えることができた。　〇日々の備えが大切。

14　事業の成果

昨年度より親子を対象とした。今年度は防災ボランティア活動に取り組む学生に手伝ってもらい参加者への補助やアドバイスも的確な補助ができた。また、参加者も災害時の行動に対するスキルは事前・事後アンケートにより確実に上がっている事がわかった。事業の中で、参加者同士の関わりや協力している場面もよく見られた。今後、参加者が事業で学んだことを発揮する場面はあまりあってはならないが、災害に対する備えや災害時の対応を近所の方と共有する等、何か行動を起こしてもらえればと思う。

15　事業の課題

避難所体験的な活動を提供してきたが、最も大切な事は命を守ることで突発的な災害時の危険回避等の学びが座学になっている。実際に体験することが出来る方向で実施できればと考えている。

活動内容に専門的な技能や知識が求められるものが含まれており、指導者も防災技術のスキルアップが必要だと感じた。職員の研修等を通して、普段から防災に対する技能・知識の習得を心がけ次回の実施に備えておきたい。

（担当：企画指導専門職　谷村　昌章）